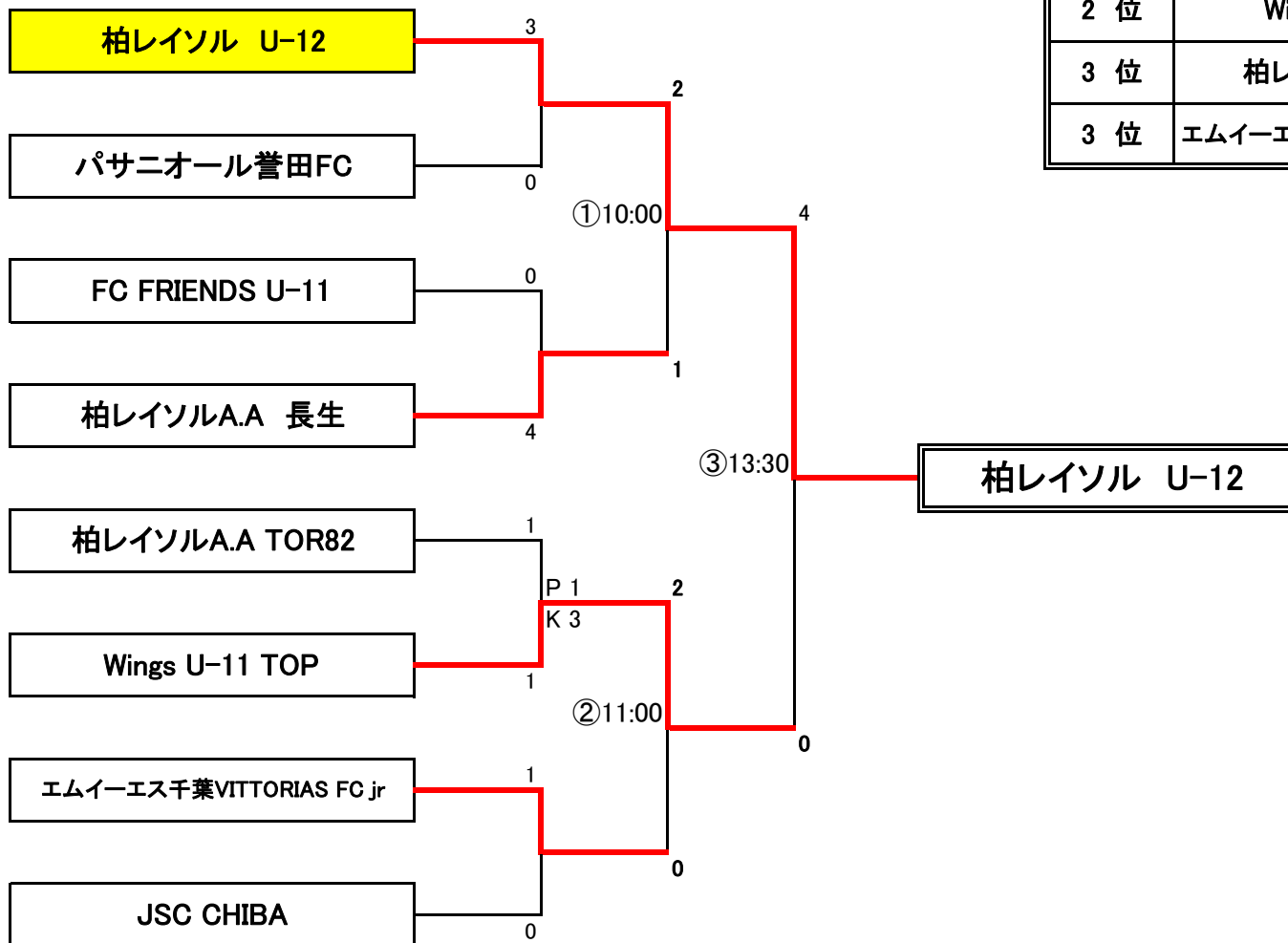


平成29年度 千葉県少年サッカー選手権5年生大会 <準決勝・決勝、結果>

12月3日(日) 12月17日(日)  
会場：成田市・中台運動公園球技場

|     |                         |
|-----|-------------------------|
| 1 位 | 柏レイソル U-12              |
| 2 位 | Wings U-11 TOP          |
| 3 位 | 柏レイソルA.A 長生             |
| 3 位 | エムイーエス千葉VITTORIAS FC jr |



# 平成29年度 千葉県少年サッカー選手権5年生大会（8人制サッカー）

## 決勝

日時 平成29年12月17日（日曜日）

試合会場 成田市中台運動公園球技場

気象状況 天候：晴れ 気温：10℃ 湿度：38% 風力：東4m ピッチ状況：人工芝

キックオフ 13時30分

対戦チーム

柏レイソルU-12

Wings U-11 TOP

試合結果

|   |   |      |   |   |
|---|---|------|---|---|
| 4 | 2 | 前半   | 0 | 0 |
|   | 2 | 後半   | 0 |   |
|   | — | 延長戦  | — |   |
|   | — | (PK) | — |   |

## 戦評

同日に行われた準決勝戦では、柏レイソルU-12は柏レイソルA.A長生に、WingsU-11TOPはMES千葉VITTORAS FC Jrにそれぞれ勝利し決勝戦へと進出した。天候もピッチ状態も最良の中台運動公園球技場で決勝戦が行われた。

### 【前半】

柏レイソルU-12（以下柏レイソル）のキックオフで前半が始まった。それぞれのチームのシステムは柏レイソルが3-2-2、WingsU-11TOP（以下Wings）が3-3-1という形で見られた。前半1分柏レイソル18番猪狩鉄太選手が自陣より右サイド27番黒沢惇道選手へ縦パスをつなぎ、折り返しを20番丸山洸選手がファーストシュートを放ったが、惜しくもゴールにはならなかった。2分にはWingsのハンドの反則でフリーキック得た柏レイソル27番黒沢惇道選手がゴールを狙うが、バーに当たりゴールにはならなかった。たて続けに柏レイソルがWingsのゴールに迫り試合の流れをつかんでいった。4分、6分にも柏レイソル22番奥村大和選手の右サイドからの攻撃でシュートまで持ち込む場面が見られた。前半7分同じく22番奥村大和選手の右サイドからの攻撃より、パスを受けた20番丸山洸選手が左ゴール隅に決め柏レイソルが先制ゴールを奪った。前半9分には柏レイソルがコーナーキックを得て、27番黒沢惇道選手が直接ゴールを決めて2点目を奪った。その後も12分、14分と柏レイソルがWingsのゴールへ迫るがWingsのGK後藤亘選手の好セーブによりゴールを守った。16分にはWings11番大塚瑛太選手が左サイドより攻め上がり、センターリングを13番本田桃華選手がヘディングで合わせるも、柏レイソルのGK沖田汰志選手に阻まれた。19分には柏レイソルが得たコーナーキックでWingsゴールへ迫るが、得点を奪うことはできなかった。前半は柏レイソルが正確なパスと個人の技術力で高いポゼッション率を得て、2得点をあげる展開となった。

### 【後半】

後半よりWingsがシステムを2-3-2と変更し攻撃力を高める形で始まった。21分柏レイソル17番加藤悠斗選手から27番黒沢惇道選手がパスを受けて、振り向きざまに後半のファーストシュートを放った。23分Wingsが得たコーナーキックが柏レイソルDFにあたりゴールするかと思われたが、GK沖田汰志選手の好セーブによりゴールを守った。27分柏レイソルが得たコーナーキックを27番黒沢惇道選手が決

め3点目となった。得点後にはWingsがキックオフシュートを狙うも、ゴール上のバーに当たり惜しくもゴールにはならなかった。その後も柏レイソル20番丸山洸選手が左サイドよりドリブル攻撃し、26番尾崎芯太郎選手がシュートを放つがゴールにはならなかった。31分には先ほどと同じ20番丸山洸選手と26番尾崎芯太郎選手のコンビネーションよりコーナーキックを得て、27番黒沢惇道選手の正確なキックにより、最後は17番加藤悠斗選手がヘディングで押し込み柏レイソルが4点目を獲得した。その後も柏レイソルがたて続けにWingsゴールへ迫っていく場面が見られた。試合終了間際にはWings10番千葉サニー選手から8番内山蒼登選手へパスをつなぎ、最後は9番吉原楓人選手がシュートを放つがゴールの枠をとらえることができず、ここで試合終了のホイッスルが鳴った。

試合を通しての総評としては、両チームとも選手個々の高い技術力の中での戦いであり、レベルの高い見応えのある決勝戦であった。両チームの違いをあげるなら、攻撃時のグラウンドの幅の使い方であったと思われる。柏レイソルは攻撃時には両サイドの選手がサイドラインぎりぎりの位置でパスを受けるのに対し、Wingsの選手はサイドラインより2～3メートルグラウンドの中に入った位置でパスを受けることが多く、そのためすぐに柏レイソルのDFに詰められてボールを奪われる形となった。そのためWingsはいつもの自分達のリズムを作ることができなかったと思われる。この2～3メートルの差が勝敗を分けたと感じられた。

両チームには来年度も更なるレベルアップを図り、今後も素晴らしいレベルの高いプレーをみせていただけることを期待したい。

公益社団法人 千葉県サッカー協会第4種委員会 5ブロック技術部委員／内野 圭介 記

